

しょうてんがい 座光寺の商店街の移り変わり

江戸時代から如来寺の門前町はありました。江戸時代の中頃には市場に2〜3軒の商家があり、明治から昭和にかけては北市場・駅前通りと急速に商家が増えていきました。このように急激に増えていく経過が、よく分かるところは外にはありません。どのように移り変わっているか、調べてみたいと思います。



駅前通りが通られる前の中市場 1922年（大正11年）

江戸時代の店

江戸時代の古い頃から、商い鑑札を受けた人が多くいますが、店があったかどうか分かりません。古くから如来寺から西側一帯を市場と呼んでいますから、店があったかもしれません。記録の最初は1775年頃（安永年間）で、如来寺前で並木屋が元結商をしていたと「北原家年代記」に書かれています。1790年頃（寛政年間）になると、如来寺のお開帳が度々開かれて大賑わいと書かれています。その頃、酒屋（松下）・魚商と商替（古瀬屋）・車屋（熊谷）・瓦屋・鍛冶屋・髪結があったことが分かります。1830年頃（天保年間）になると、酒商売（宮沢屋）・小間物商（北原屋）・料理屋（ぎふ屋）・福屋（赤羽目）・瓦屋（澤田）が増えて、8軒以上の店が並んだようです。1877年頃（明治10年）になると、北野屋・並金・大舟屋・松村・岡田屋などの店が増えて、市場商店街が発展しています。



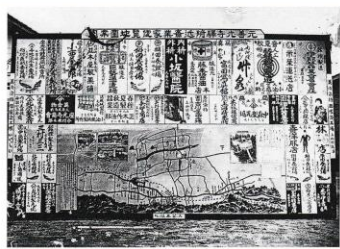
旧市場通り

明治40年代の商店街

1901年（明治34年）から如来寺前の道路改修が行われました。本沢から北側の旧竜西線や、高岡の森へ通ずる新しい田村線もできました。如来寺前から本沢沿いまでの道路沿いに3〜4軒、現在の農協通りから東側の藪沿いに4〜5軒、高岡の森の近くに4〜5軒の新しい店が並びました。今までの市場商店街の北側にできた商店街ですから、北市場商店街と呼んでいます。市場には吉川製糸場と北野屋製糸場、本沢沿いに寺地製糸場、北市場に日の丸製糸場や藤本醤油工場もできました。市場と北市場の商店を合わせると、40軒ほどに増えました。



北市場の福金商店 1922年（大正11年）

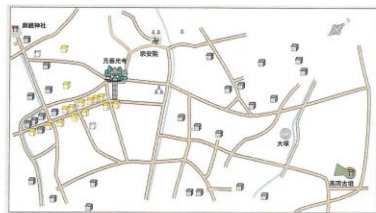


商工会の大看板 1925年（大正14年）

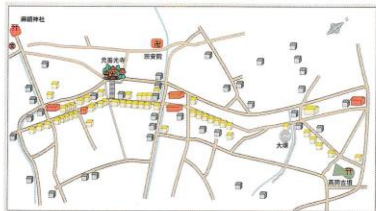
1927年（昭和2年）以降の商店街

1923年（大正12年）8月に伊那電気鉄道元善光寺駅が開業しました。この年から、駅から如来寺前までの駅前道路が計画されて、工事が始まっています。完成した1925年（大正14年）までの間には、北市場の店の人たちや他村から移住してきた人たちが、次々と新しい店を建てました。1927年（昭和2年）の絵図によると、以前の市場の店を含めて、90軒以上の賑やかな商店街が出来上がったことが分かります。それより前の1916年（大正5年）には座光寺郵便局が開局し、共信社という製糸工場が操業を始めています。賑やかな門前町となって、お彼岸の中日には通りがいっぱいになるほどお参りの人が多くありました。

1926年（昭和元年）には劇場 楽楽園も建設されて、本格的な菊人形飾りも行われました。座光寺音頭が出来上がったり、桜並木が名物の一つにもなりました。元善光寺みやげが計画されたり、祇園飾りが行われたのもこの頃からであります。



【1873年（明治6年）以前】



【1922年（大正11年）】



【1927年（昭和2年）】

国道座光寺バイパスの商店街

太平洋戦争終戦後から1975年（昭和50年）頃までは駅前道路沿いの商店街は賑やかでありましたが、その後、少しずつ店が少なくなりました。1984年（昭和59年）に国道153号線座光寺バイパスが開通すると、商店街の中心はバイパス沿いに移りました。旧市場から南市場・中市場・北市場の店もだんだん少なくなって、現在では20軒ほどに減ってしまいました。2008年（平成20年）現在では、佐藤商店・高岡亭酒店・かじか・ミナミ・福沢製畳・クボテツ・寺地商店・棚田酒店・川本屋・山屋・光仙閣・飯島理容・牧内モーターズ・赤羽商店・今村理容・福金商店・伊藤薬店・吉丸屋・あめや土産店などです。

（今村善興）



バイパス通り